

# 親子聖書日課

NO.1565 2018.9/23-29

名前

[日]神は約束の地へ入った時、偶像を壊すよう命じました。一つでも残しておく、信仰をだめにするからです。神以外のものにより頼むことが、偶像礼拝です。「少し位、大丈夫」という気持ちは危険です。御言葉の剣で、偶像を取り除きましょう。

[月]レビ人は主の言葉を伝える為に、全部族を48区に分け、一つの町を作り、分散して住みました。今日のレビ人は、クリスチャンのことで、一つの町(教会)を作って、福音を伝えます。「町をその中央に置いた」ように、教会を中心として生活しましょう。

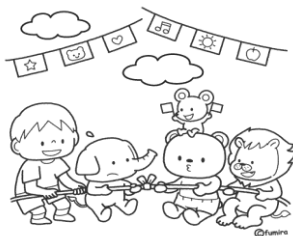
[火]誤って人を殺した者の身が守られる「逃れの町」は、素晴らしい制度です。どんな罪人でも生きる権利はありますし、又、赦しが必要です。教会こそ、今日の「逃れの町」です。「すべて重荷を負う者、来たれ！」と声を大にして、教会に招きましょう。

[水]結婚相手を選ぶ条件は、相手を「気に入る」ことが大事ですが、それと共に、「父方の部族の一族の者とだけ」とある様に、クリスチャン同士の結婚が望まれます。信仰・希望・愛で結ばれているなら、その家庭は主の栄光を現すことができます。

[木]申命記とは「律法の写しを作り」(17:18)に由来しています。「命」は律法、「申」は再び述べるという意味で、モーセの遺言です。大切な書ですから、自分に当てはめてみましょう。神の言葉が迫り、すべきことが示され、生きる力が与えられます。

[金]私達に「先立って進まれる神」が戦って、勝利を与えて下さるので、恐れることはありません。主の命じられた通りに行えばよいのです。現実の困難さだけを見ないで、主を見上げましょう。主は敵よりも遥かに大きく、強い、永遠の巨人です。

[土]主が共におられるなら、たとえ荒れ野であっても「何一つ不足」しません。その反対に物質的に豊かでも、主が共におられないなら、心は欠乏します。主が共におられるためには、ただ主を信じるだけでなく、どんな時も主に従うことです。



	聖書	問題	答え
日	民数記 33:50- 34:15	異教の祭壇をことごとくどうすべきですか。	
月	34:16- 35:8	所有する土地の一部を誰に与えて、彼らの住む町としましたか。	
火	35:9-34	過って人を殺した者が逃げ込める町を何と言いましたか。	
水	36:1-13	ただ、どこの部族の一族の者とだけ結婚すべきですか。	
木	申命記 1:1-18	裁判に当たって、どんなことがあってはなりませんか。	
金	1:19-46	誰があなたたちのために戦われますか。	
土	2:1-23	荒れ野での40年間、民が何一つ不足しなかったのは、なぜですか。	
	感想と祈りの課題		